

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290900206		
法人名	株式会社 生活科学運営		
事業所名	グループホームつどいの家高根台		
所在地	千葉県船橋市高根台2丁目2番17号		
自己評価作成日	平成27年3月2日	評価結果市町村受理日	平成27年3月31日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaijokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2丁目10番15号		
訪問調査日	平成27年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今期は特に外出することに重点を置いて取り組みを行った。取組については、サービス向上のために会社が導入しているGA活動の手法を使い、原因分析や問題解決を行った。入居者のADLの低下とともに外出機会が減少傾向にあったが、地域での行き先や場所を新たに発見し出かけた。また目的をもって(買い物などが中心だが)外出することで入居者にも充実した外出提供になった。また外出をする機会を増やすために業務の工夫や見直しなども合わせて実施することができた。それにより、スタッフも外出するための技術の向上や臨機応変な対応ができるようになりつつある。今後も外出することで入居者のADLの維持・向上を図り、充実したサービスを提供するとともに地域との関わりや資源を増やしていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営方針「多様な選択…自由な意思決定…意思尊重…」を実践するために、外出の機会増を取り上げ、全職員でグループ討議し外出困難な問題を抽出・整理し、解決策を検討し実行している。また、全職員の討議と取り組み内容を運営推進会議の場で報告し理解を得ている。当法人内での小集団活動の取り組み事例としても評価され「優秀賞」を受賞し職員の働き甲斐にも繋がっている。当ホームは地域住民の誘致活動の結果設立された経緯があり、他事業とも連携し総合的に地域福祉の拠点として地域貢献出来る様に努めている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時や各ミーティングなどを通して運営方針・理念の説明と共有を図っている。またその場を利用し、管理者と職員間で運営や理念などに対して意見交換を行っている。	理念・方針「利用者の意思の尊重と自由な行動」の実践的取り組みとして「外出の機会増」を職員全員のグループ討議で問題点整理と解決策を考え実行している。また、ユニット毎利用者の状態を考えて年間方針を立てている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は当事業所の5周年記念行事を開催し、事業所・入居者や家族・地域の方々との交流の場となった。また、地域や近隣の行事などにも積極的に参加・利用することができた。	事業所5周年記念行事や地域行事への参加等で利用者・家族・地域住民との交流の機会が多い。また、事業所内で定期的に行う「カフェ」に参加し認知症の理解促進に努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や買い物の時など近所の方と交流を図ったり、事業所内で開催しているカフェに参加し、認知症について理解して頂けるように働きかけている。また今年是他事業所と合同開催で認知症カフェも開催した。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の様子をスライドなどを活用し、見て頂いている。今年5周年記念や大外出などの行事には好評を頂けた。また、事故や日々の外出も家族と意見交換をし、サービス向上に繋げている。	自治会役員、民生委員、地域包括支援センター長、家族、利用者の参加を得て、外出の取り組み、リスクマネジメントの取り組み、日常生活状況、イベントの様子等報告し、意見を頂き運営に反映している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高根台地区社会福祉協議会の行事への参加や推進会議に自治会の方や在宅支援センターのケアマネジャーを招き、サービスの取り組みを伝えている。	市の担当窓口とは運営上の事例ごと相談し、密接に連絡をとり信頼を得る様に努めている。また、地区社会福祉協議会の行事への参加するなど連携している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	千葉県での研修を施設内でも勉強会として開催した。具体的な身体拘束はもちろんないが、スピーチロックなど精神的な拘束などをないかミーティングなどを活用し、検討・検証している。	身体拘束廃止委員会を設置し、委員が毎年県の身体拘束廃止や高齢者虐待防止研修に参加し、ホーム内で勉強会を行っている。具体的な言葉による拘束や虐待事例により、話し合い検証している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記のミーティングを活用し、虐待などがなければスタッフ間で確認し合い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修や外部の研修を活用し、学ぶ機会を設けており、職員間でも共有ができています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書の読み合わせを行い、入居者や家族にわかりやすく説明を行っている。不明点についてはその場で解答している。書類改定の際も家族へ密に報告し、十分な説明と理解を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から入居者、家族から頂いた意見や要望はスタッフ間で共有している。また推進会議などでも意見・要望を頂くがミーティングを通して運営に反映できるように努めている。	ご家族が面会に来られた機会に率直な意見を伺い運営に反映している。最近の事例は外出希望や転倒防止等の要望を解決するように職員全員で話し合い実行している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃はミーティングなどが職員の意見・提案を確認する場面になっているが、それ以外にも個人面談を通して個々に職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	問題点を小集団活動の手法で、全職員でグループ討議し、問題点の書き出し整理、解決策の検討、具体的な実行等職員が中心に運営を考え実行している。	小集団活動で理念・方針の具体化をさらに話し合い、実践出来ている事、出来ていない事、さらに職員の働き甲斐も含めて、総合的に整理・検討することを期待したい。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上記の個人面談などでも就業に関する状況をお互いに確認しているが、それ以外にも定期的に就業の確認を行い、一人一人が働きやすいように環境整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修ともにスタッフへ情報を開示し、研修の機会を確保している。また管理者などの推薦で参加してスキルアップに繋がっているケースもある。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	船橋市のグループホーム連絡会に参加し、情報交換や意見交換を行っている。また前述にもあるように今年は認知症カフェの開催も行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の見学対応や運営面談で本人の思いや不安を聞き取り、関係作りに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記と同様に見学や運営面談で家族の思いや不安を聞き取り、関係作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	運営面談や体験入居から本人の生活スタイルを把握し、家族とも情報を共有すた上でサービスの見極めや必要な支援をしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれに合わせた役割や生活スタイルを尊重し、生活を送って頂いている。また個々の役割についてもミーティングで検討している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から家族とのコミュニケーションを密にとるように努めている。ご様子が変わった時や事故が発生した時等速やかな連絡を心がけて、家族との関係作りを行っている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・友人の方々が来訪しやすい雰囲気作りに取り組んでいる。またお話ししやすいように談話コーナーなども設けており、環境作りにも配慮している。	アンケート調査では家族が気軽に生きやすい雰囲気がある全員が回答している。家族・友人との関係が継続できるように、雰囲気づくりや環境作りに努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の関係性を確認しながら、食事の席を変更したり、入居者同士で取り組めるような作業などを取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域連携室や特別養護老人ホームのケアワーカーなどに相談し、本人・家族が必要とするサービスの提供に努めた。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望・要望に沿い、ケアプランを作成し、職員間で共有している。困難な場合は家族から情報を得ることが多い。	法人作成のフェイスシート、アセスメントシートで本人・家族の意向、生活歴、日常生活、精神状況、ADL状態を把握し「本人の希望や思い、意向」の把握に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	使い慣れた家具などを持ち込んで頂き、馴染みある生活環境を整えている。またこれまでの生活歴については運営面談で情報収集を行い、入居後に反映している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者記録などに日々の様子を記載し、現状の把握を行っている。そこから見える課題や検討すべき事項についてはユニットミーティングで意見交換を行っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	上記と同様にユニットミーティングから現状に即した介護計画を作成しているが、それ以外にも看護師や医師、家族も交えたカンファレンスなども開催し、チームケアを心がけている。	各ユニットミーティングで全職員原則参加の基に利用者ごとの情報共有の上、専門職や家族参加のカンファレンスにて介護計画を立て、チームによるケアに努めている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者記録や週間記録などへケアの実践や結果を記載しており、職員間での情報共有するものとなっている。そこから気づいた点については申し送りをし、必要性があればミーティングで検討している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ミーティングなどで必要なサービスについても検討し、必要があれば、訪問マッサージや各種ボランティアの導入を行い、今年は将棋のボランティアも導入することができた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	推進会議に自治会の方や民生委員の方にも参加頂き、地域の情報を得ている。また当事業所の関係者が集まり開催している会議でも地域資源の情報交換などを行っている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の医師に最近の様子を伝え、同時に本人や家族の要望についても共有している。必要時には専門医への受診なども行っている。	利用者・家族の同意を得て、全員、協力医療機関を主治医としている。主治医は毎月ユニット単位で健診を実施し、且つほぼ毎日来所し1日に一人づつ診察している。その結果は申し送りにより職員共有し家族に報告している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との情報共有を行い、看護師もまた介護職の記録など状態の把握に努めている。それを踏まえた上で医師や薬剤師との連携を図っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院中も積極的なお見舞いを行い、現状の把握を行っている。必要時は入院先の相談員とも連携し、早期の退院やそれに伴う準備を行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期的に家族とも情報共有を図っているが、それ以外にも健康診断に職員も同席している。またその場で医師とのカンファレンスを開催するなど、早期から話し合いを持ち、お互いの意思確認などを行っている。	契約時に利用者・家族の思い・主治医との連携・事業所として対応し得る支援方法について話し合いをし、重度化した場合、主治医・家族・看護師・職員で話し合いが持たれ、看取りを希望する場合は最後まで本人らしく過ごして頂く様に連携し支援している。今年度は一人の看取りを行っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年もAEDの使用方法や応急救護についての研修会を行った。また極力全員が受講できるように複数日開催した。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	9月に消防訓練を行い、入居者・職員ともに避難訓練を行った。また3月にも消防訓練を予定している。	消防署指導のもと9月に火災想定訓練を実施した。消火器使用訓練・119番通報・テラス経由の避難訓練・駐車場で集合等を利用者・職員共同で実施した。また3月にも職員中心で消防訓練を実施した。AED救急救護研修を全員受講している	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常から声かけには注意し、疑問や気になるところについてはミーティングなどで確認し合っている。	年上の方に対する尊厳の気持ちを大切にするとともに、利用者の意志を尊重し利用者本位の支援を心がけている。スタッフミーティングで言葉遣いについて取り上げたり、職員相互の会話の中でも日々言葉かけに注意を払い確認し合っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表現できる方だけの意見に流されないように関係作り、雰囲気作りを行っている。また普段から自己決定できない方については家族の意見も取り入れつつ、配慮をしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調や気持ちに合わせて入浴や居室清掃、アクティブなどを行っている。極力無理強いせず、本人の意向に合わせている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品販売や衣料販売などを導入している。また毎月理美容も2社入れており、入居者に合った選択ができるように提供をしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの嗜好を把握し、できる準備や片付けはそれぞれでできるように支援している。また過去の嗜好などについては家族からも情報収集をし、お気に入りのケーキで誕生日会を開催することもできた。	主食材はインターネットショッピングで入手し、野菜類は毎日訪れる八百屋から仕入れている。メニューは毎食、利用者と職員で決めている。利用者は下膳を手伝ったり、おやつのお白玉・ホットケーキを作ったり。また季節食・外食支援もある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に食べれる量や質には気を配り行っている。また栄養バランスが過多にならないように栄養補助食品などの導入も行った。なかなか水分摂取が進まない方には様々な飲料を試すなどの取り組みも行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者それぞれに合った介助方法で行っているが、必要方には歯科往診時の口腔ケアも行い、その他助言なども頂き、日々のケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録などを活用し、入居者の排泄パターンの把握に努め、それに合わせた上でリハビリパンツやパットなどの内容を決めている。またミーティングなどでトイレ誘導の時間や方法も検討している。	週間個人記録で水分摂取量・時間を確認し、利用者の排泄リズムを把握してトイレ誘導している。また、ソワソワ・立ち上がる等個々の仕草・状況に注意を払い小声で誘導するなど自尊心に配慮した支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や歩行などの運動や水分や乳酸飲料やヨーグルトなど食物の工夫など便秘の予防に努めている。それでも困難な方には医師から下剤を処方し、過剰に使用しないように取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯を固定せず、幅広く入浴時間や日数を設けているので個々に合った入浴を提供できている。	通常週2～3回の入浴であるが、利用者の希望に応じて毎日入る方・夜一人で入る方もおり、個々に沿った支援をしている。バイタル表で体調確認し、体調不良の時は、手足浴・シャワーに変更する。また浴槽は一般とリフト付きを備えている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的な巡回を行い、それぞれに合った時間に行くことで安心して休んで頂けるような環境作りに配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師から用法や容量には注意点を頂き、職員間で情報共有をしている。また職員間で2重チェックするなど十分な対策を継続できている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カルチャースクールやボランティアさんを活用し、それぞれに充実した生活が送れるように支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者、家族とバス旅行に出かけたり、季節ごとの外出を企画して取り組んでいる。また今年は集中的に外出支援についての検討を持ち、実行した。	全職員で討議し外出の機会増に取り組んでいる。毎日天気の良い日は外気浴もかねて、近所の散歩、或いは駅前のお店に買物に出かけている。そして地域のクリーン作戦に加わりゴミ集めをしたり、焼き芋会に参加したりしている。また家族とともにバスで品川水族館に出かけたりの支援もある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を持つことを希望される方には家族と話し合い、了解を得られた方には現金を所持して頂いている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿い、可能な範囲で電話対応をしている。また家族や友人から電話がかかってくることもあり、対応している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや食堂など不快にならないように常日頃から衛星面については十分な清掃や消毒を行い、快適な環境を提供している。また季節を感じる事ができる掲示や植物などを取り入れている。	リビングは採光がよく明るい。テラスの内庭には椿・パンジー等いろいろの花が鉢植えされており利用者は水やりを手伝っている。壁面には利用者・職員協力して作られたステンシルアートの大きな絵や利用者書道の作品が並んでいる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話スペースやウッドデッキ、喫煙スペースを持つなどしてそれぞれが快適に過ごせる空間づくりをしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時から使い慣れた家具を持ち込んで頂き、安心した生活を送れるように配慮している。	居室の入口には形・大きさ・色の異なる手作りの表札が掛けられている。室内は利用者がなれ親しんだ洋服ダンス・テーブル・寝具・こたつ等持ち込まれている。また温・湿度はエアコン調節されているが職員が2時間ごとに見回り調整している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースには物を置かないなど動線を確保し、車椅子の方や歩行器の方にも安心して生活できるように配慮をしている。		